

3. 今年は地震、台風、豪雨災害など自然災害が多発した年でした。

1月の「熊本地方地震」、2月の「北海道胆振地方中東部地震」、5月の「宮崎日向灘地震」、5月の「千葉県南部地震」、6月の「山形県沖地震」、8月の「福島県沖地震」と、マグニチュード5以上の地震が発生しました。

そして、8月「令和元年九州豪雨」、9月「令和元年台風15号」、10月「令和元年台風19号」と立て続けに豪雨、台風災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしました。

環境省が公表した「人と自然との共生懇談会」資料によると、日本に自然災害が多い理由として①日本列島が4つのプレートによって形成され、地震活動、火山活動が活発である②急峻な地形を有し、河川の流れが急である③アジアモンスーン地域に位置し、梅雨と台風の時期にしばしば集中豪雨が起きる④土地利用が過密で、河川や海岸、火山に接して都市や農地が位置している、の4点が挙げられています。

この資料では、1900年以降に発生した世界の主な自然災害のうち、日本で起きている割合は気象災害（台風、洪水など）が9%（56件中5件）、地震・津波が16%（55件中9件）としています。

この結果、災害死亡者は世界の1.5%にとどまるものの、自然災害で発生する被害金額は17.5%にも上り、日本は災害の多い国という事が判ります。

4. “政治の劣化”、“官僚の劣化”が指摘された1年でした。

4月には塚田一郎国土交通副大臣と桜田義孝五輪相が相次ぎ辞任。10月には菅原経産相が秘書の香典問題で辞任。同月、河井克行法相が妻の参院選選挙運動を巡る週刊誌報道を受け辞任するなど、閣僚の辞任が相次ぎました。

この他にも、5月には丸山穂高衆院議員の「戦争扇動発言」でけん責決議案が国会提出。9月には、豪雨被害対策中に森田健作千葉県知事が私用外出。12月には、初鹿明博衆議院議員が強制わいせつ容疑で書類送検。12/25日本でのカジノを含む統合型リゾート施設事業への参入を目指す中国企業側から利益供与を受けたとして、収賄容疑で衆議院議員秋元司容疑者が逮捕されるなど、政治（家）の劣化が指摘された1年でした。

また、1月には厚労省の毎月勤労統計の不正調査問題が発覚。6月には、年金だけでは老後資金が2,000万円不足すると試算した金融庁審議会の報告書が出されたものの、あえなく陳謝し、撤回。「桜を見る会」問題では、「税金の私物化」、「公私混同」、「公職選挙法」が禁じる買収・供応疑惑が取りざたされるなか、官僚による関係資料が廃棄され、またもや官僚の“忖度”が問題となるなど、「各省庁が官邸の言いなりとなり、官僚が劣化した。」と指摘されました。

5. 県政でも様々な事が起こりました。

12月4日、本県出身の中村哲医師「ペシャワール会」現地代表がアフガニスタンで銃撃され死亡する事件が起こりました。改めて中村氏のご冥福を祈ります。

8月には豪雨災害が発生し、3年連続で災害が発生しました。また、「宿泊税」導入にあたっては、福岡県と福岡市が互いに政策的折り合いをみせ、収束しました。県議会では「福岡県における性暴力を根絶し、性被害から県民等を守るための条例」を制定することとなり、県民の安全・安心の柱の一つとなりました。

振り返りますと、県内でも様々な事件・事故が発生し、楽しいニュース、悲しいニュースがありました。「悲喜こもごも」とはよく言われますが、2019年・令和元年も締めくくりの時を迎えています。何はともあれ、皆様の笑顔が絶えない一年であったことがなにより嬉しいことです。

今年一年の幸いに感謝するとともに、どうか年末・年始、事故やケガや病気がなく、健やかに過ごしてください。来年も皆様にとりまして良い年であるように祈念致します。